

耳公民館だより



第65号 令和7年1月



(和田海岸から見た雲塊)

各種の予報から「今年は雪の年越しか」とかまえていたところ、思いのほかおだやかな天気のお正月でした。暦の関係で少し長めの休館となった最終日に、仕事始めのスイッチを入れようと耳地区の写真を撮りに出かけました。和田の海岸では海よりも空に目がいききました。雲のかたまりですが、山のようにも見えてきます。子供のとき「雲の上を歩けたら…」と思ったりしたものです。

一羽の鳥が同じ方を向いていますが、何を想うやら。

耳地区の素材を生かす講座

竹でつくる器

新庄区の伐採作業で出た竹を
いただいて活用します



直径10センチの
立派な竹ですよ

①サンドペーパーで
ごしごしみがいて



②色をぬったり、絵やもようをつけたり

どう使うか
何を入れるかは
アイデア下さい



テープでマスキングします
意外と塗りやすいです

一般の部

2月16日(日) 午前9:30~11:30 **耳公民館研修室**

申し込み〆切：2月8日(土)

参加費：100円

※長さが2タイプあります
(約12センチ・8センチ)
申し込み時にお伝えください。

親子の部 2月1日(土)

⇒学校を通じてチラシを配付しました

立ち寄り型講座「ふらっと」ニュース



カプセルだるま

どちらも
いい感じです



写真展

弥美神社の 大しめ縄が できるまで



地元の写真愛好家、伴和男さんと
弥美神社、崇敬会のご協力により
写真展を開催します。

(1月下旬～)

小学生版画作品展

冬は版画のシーズンです。
中央小1～6年生の力作40点を
展示します。(1月下旬～)



館長のつばやき

縁起物

いつまでもお正月気分ではいけません。皆さんは縁起物という何が思い浮かびますか。招き猫、だるま、熊手、鯛鶴、亀…、指折り数えるうちに思わず表情がゆるみます。木にも「縁起木」があつて、今回の講座で扱う竹を含めて「松竹梅」は暮らしの中に浸透して出て出番が多いですね。

寒い冬でも松は変わらず緑を保ち百年を越えても生き続けることから長寿の象徴とされ、竹は雪の重みに耐えながら次々と新芽を出して、三か月ほどで親と同じ背丈になることから子孫繁栄につながると言われています。梅は厳しい冬でも他の草木に先がけて花を咲かせ一番に春を知らせることから華やかさと喜びを表すとされています。自然豊かな耳地区に暮らしていると、三つとも実感できるのが幸せです。

しかしながら「花よりだんご」の私としては松竹梅と聞く「うなぎ定食」を連想します。江戸時代には特上とか並とかではなくこの三段階だったようです。今の時代よりも安かったとはいえ、高級な店では注文を聞いてから、さばいて、焼いてと丁寧にするので長く待たされたらしく、江戸っ子のしゃれで「やっぱりうなぎは待ただけうめえ(松・竹・梅)」と言ったとか。

耳公民館では今年も、講座や展示の企画を練り出してご来館をお待ちいたします。誰も見えずに「待ただけ」で終わるようなことだけはしたくないですね。

新年早々、縁起でもないことを…。皆様、どうぞお気軽にお越しください。